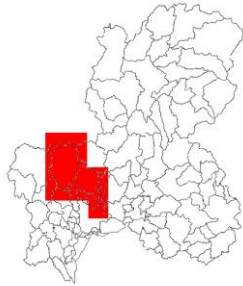


シマシロヤマシダ	<i>Diplazium doederleinii</i> (Luer) Makino	絶滅危惧 I 類
		イワデンド科
選定理由	全国的に見ても少ないシダで岐阜県では生育地、個体数共に少なく存続の基盤が脆弱である。	写真(荻山恒弘)
形態の特徴	夏緑性のやや大型になるシダ植物。シロヤマシダによく似るが、葉は濃緑色で孢子嚢群は中肋寄りに着くので区別は容易である。	
生態的特徴	やや陰湿な植林地に生育している。	
分布状況	県南の中部と西部に分布する。	
減少要因	生育地の林下の光条件の悪化や林道整備等が主な要因と思われる。	
保全対策	生育地の植林の適度な管理。林道整備の際には配慮が必要である。	
特記事項	県内のものはキタノシマシロヤマシダ(仮称)として区別されることがある。	
参考文献	岩槻邦男. 1992. 日本の野生植物. シダ. P. 255. 平凡社. 東京. 倉田悟・中池敏之(編). 1983. 日本のシダ植物図鑑. 3. P.96-99. 東京大学出版会. 東京.	

文責: 荻山恒弘